



生育期

4～6月

テーマを決めて観察しよう！

さまざまな視点から、苗を観察してみよう

定着後、活着すると苗がぐんぐん育ち、開花・着果が観察できます。

葉のつき方、つぼみ・花、実の数など、苗の生長に合わせて観察のテーマを決めることで、子どもたちが苗の変化に気づきやすくなります。



観察記録 (かんさつきろく)

作業内容

- 1 その日に観察するポイントの視点を与えます (子葉と本葉の形、葉のつき方、つぼみ・花・実の形や数など)。観察前に子どもたちにどうなっているかを予想させると効果的です。
- 2 カゴメホームページ内「りりこわくわくプログラム」サイトの「かんさつきろくシート」を使って、目だけでなく、鼻、手、心で感じたことを記録すると、後で活動を振り返る際に思い出しやすくなります。
- 3 2を利用して、これまでに観察したことをまとめます。さまざまな表現活動と関連づけることで、充実した栽培活動のまとめにつながります。



観察記録を児童用玄関に掲示し、校内の交流が活性化
2013年度 北海道帯広盲学校



開花期

4～5月

着果促進・芽かきをしよう！

たくさんの実がなるように、着果促進をしましょう

「凜々子」は、葉が3本出ると花が咲き、また3本葉が出て花が咲き…と花をつけていきます。

天候が安定していれば、苗を植えてから2週間くらいで花が咲きます。

プランターなど狭い場所で育てる場合は、たくさんの実がなるように芽かきや着果促進をしてください。

●芽かきについて

通常、加工用トマト農家では芽かきが行わず、わき芽も上手に育てて多収穫を目指します。しかし、学校などでは狭い土地にたくさんの苗を植える場合が多く、風通しをよくして病気を防ぐ必要があります。

●着果促進について

トマトは自家受粉します。花が下を向いているのはそのためです。開花している3～4日の間に受粉すると、1週間くらいで大豆大の実がつきます。着果促進をすることで、確実に実をつけるようになります。

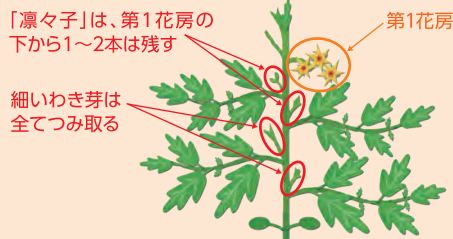
芽かき (めかき)

作業内容

- 芽かきは、最初の花（第1花房）が咲いたら**1度だけ、よく晴れた風のない日に行いましょう**。雨の日や雨上がりなどは、空気中にある雑菌に感染し、病害が発生しやすくなるので避けてください。
- 手をきれいに洗ってから作業しましょう。**第1花房の下にあるわき芽のうち、上から1～2本を残し、それ以外のわき芽を指でつまみ取ります。**

栽培のコツ

「凜々子」は第3～4花房で成長点が止まる芯止まり品種のため、芽かきは1度しか行いません。次々とわき芽をつんでしまうと、第3～4花房の着果以降、収穫できなくなってしまうので注意してください。アサガオの鉢など土の量が5リットル以下の場合は、第1花房のすぐ下のわき芽1つだけを残し、その下のわき芽は全てつまみ取ってください。



着果促進 (ちゃっかそくしん)



花房のこの部分を指で軽くたたく

作業内容

たくさんの実がなるように、花が十分に開いたら、花房を指で軽くたたいて、受粉・着果を促進させます。最も花粉が出やすい、晴れた日の午前中に行うと効果的です。

準備期

定植期

生育期・開花期

収穫期

病害虫・生育不良



生育期

6～7月

追肥をしよう！ 支柱を立てよう！

病害から守るために、支柱を立てたり、ワラを敷いたりしましょう

果実が肥大し、色づき始める時期です。

一方で、気温が上がリ湿度も高くなるため、管理が難しく生育不良や病虫害が発生しやすい時期でもあります。定期的に追肥をし、支柱を立てたりワラを敷いたりしてください。

●支柱について

「凛々子」は、葉と葉の間に短い芯止まり品種のため、通常、契約農家では手間を省くために支柱を立てずに栽培します。しかし、学校などでは苗と苗の間隔が狭く、果実に土がついたり、蒸れて病気が発生しやすくなったりするため、支柱をおすすめします。

支柱を立てずに育てる場合、わき芽が地面を這うように伸びてきたら、稲ワラなどを敷きましょう（敷きワラ）。敷きワラは、雨や水やりなどで土を跳ね上げにくくし、病害を防ぎます。

●^{ついひ}追肥について

トマトはアサガオなどの草花とは異なり、実を肥大させるために多くの栄養分や水分を必要とします。栄養分が不足すると、着果しても実が大きくなりなかつたり、生長が止まったりします。**着果したら、必ず追肥（追加で肥料を与える）を行ってください。**

追 肥 ^(ついひ)

作業内容

鉢・プランターの場合

1週間に1度の割合で、市販の園芸用液体肥料を根元に与えます。量や回数が多すぎると、根腐れや葉焼けを起こします。説明書をよく読み、適正な濃度に薄めて、葉や茎に液がかからないように与えてください。

畑の場合

畑の場合は、14～20日に1度の割合で化成肥料を根元に与えてください。

栽培のコツ

追肥は実がついたら必ず定期的に行ってください。

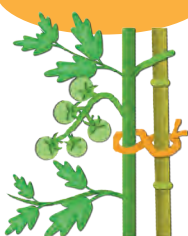
追肥は適量を定期的に与えることが大切です。カルシウムが多すぎると他の肥料の吸収が悪くなる、窒素が多すぎると花がつかなくなり葉ばかりが茂る、などの症状が出ます。

支柱立て ^(しちゅうたて)

作業内容

1本に1m程度の支柱を立て、ビニールひもなどで実のそばの茎と支柱を結びます（誘引）。その際、茎と支柱の間に多少あそびが出るよう、右図のように8の字型にし、きつく結ばないよう注意します。

ゆるく8の字型に結ぶ



栽培のコツ

実が赤くなり始めると、鳥が実をつつきに来ます。畝のまわりに支柱を立て、テグスやネットを張ると鳥の被害から実を守ることができます。鳥は羽が傷つくことを嫌うので、テグスをピンと張るようにしましょう。

※未就学児が摘み取って口にし、誤嚥することもありますので、ネットを張ることをお勧めします。